

国際業務の 窓辺から

CLAIR 経験者からの
メッセージ



京都府府民生活部青少年課 八木 寿史

ソウルの追憶

「八木さん、気楽にいきましょうや」

ソウルからの帰国をひと月後に控え、それまで親しくさせていただいてきた方々と、一杯飲みをこなしていた時期。韓国のある官庁にお勤めのその方は、しゃかりきに韓国語で話そうとする私に向って、やや癖のある日本語でこう諭してくれました。この言葉でこの2年間、何となく感じていたプレッシャーが解け、すっと肩の力が抜けた気がしました。

海外派遣の内示を受けたとき、語学もできない自分がなぜ選ばれたのか、不思議でありました。当時京都府に韓国と友好提携している自治体はなく、友好都市交流や航空路線の維持拡大、といった「大目標」を持って赴任する同僚達に刺激を受けながら、2年間で語学くらいは持って帰らないといけない、と思ったものでした。

ソウル着任直後に開催された日韓知事会議でのアテンドや、京都府南部に広がるサイエンスパークである関西文化学術研究都市と韓国の大徳研究開発特区との交流開始にかかる調整は、私にとって大きな仕事となりましたが、語学の点では、反省点が多いものとなりました。クレア本部で1年ほど語学研修があるとはいえ、教室で学ぶ言葉と現場で使われる言葉は別物。韓国側は官庁でも自治体でも日本担当部署には大概日本語ができる担当官が配置されており、一人で困ったときはその方々に頼ってしまい、ホッとする反面、何ともいえない後ろめたさが残りました。

語学を志す者が欲しいモノ、それは現地の友達でしょう。ただ、海外勤務中とはいえ、街を歩いているだけではそのような機会に恵まれることはまずありません。

クレアソウルでは、韓国の（当時の）行政安全部、消防防災庁と日本の総務省、消防庁との交流窓口担当となりました。両省庁は定期的に交流会議を持っていたほか、取組事例の照会もよく行われていました。調整は、両国のスピード感の違いや制度（トップダウン型の韓国とコンセンサス重視の日本）の違い等から苦労しましたが、その分、両省庁の担当の方とは親しくしていただけるようになりました。特に、韓国消防防災庁には、日本語サークルがあり、よく飲



大徳研究開発特区での関西文化学術研究都市の紹介

みに連れて行ってもらったり、日帰り旅行に連れてもらったりしました（ソウルから半島南端の観光地まで、片道6時間のバスに乗せられたのにはまいりましたが）。

語学学習には、人によって、文法・単語から入っていくタイプと会話から入っていくタイプがあると思います。私は、自分があまり社交的ではないことを自覚していたので、オーソドックスに語学学校に通うことにしました。ここでの同級生はさまざまな地域から来られていたため、意思疎通の方法が韓国語しかない状態でした。中には恋人や配偶者が韓国人である方もおられ、一緒に親しくさせていただきました。

こうして韓国人の知り合いを作ることができました。彼らは結構頻りに誘ってくれる、のはいいいのですが、話がいつも急。大概が今晚どうか。単身で赴任していた私はいつも一人で食事をしているのだから、誘ってあげるべき、などと考えているようで、人と人の距離が日本人同士の場合に比べ近く感じました。会話はできるだけ韓国語にしようと思いましたが、彼らは早口、言葉も多い。負けずにこっちもしゃべる量とスピードを増していきましたが、通じているのか、合わせてくれているだけなのかは、雰囲気のみをみていればわかるもの。帰り道で落ち込むことも多かったです。

帰国を目前に、それまでお世話になった方々、遊んでくれた方々にあいさつ回りをしていた時にももらった言葉が冒頭の言葉です。このとき知り合った方々とは今でも連絡が続いており、私が韓国へ行くときや彼らが日本へ来られる時には一席持っています。



語学学校のメンバー。出身地はアメリカ、上海、台北、バンコク等バラエティに富んでいる。前列中心が筆者。

プロフィール

- 所属・役職：京都府府民生活部青少年課・副課長
- 国際業務経歴：
 - 2007年4月～2008年3月 クレア本部 JET 担当
 - 2008年4月～2010年3月 ソウル事務所所長補佐
 - 2010年4月～2016年3月 京都府国際課